

2024年9月期 第2四半期 決算補足説明資料

ティアンドエスグループ株式会社

(東証グロース 4055)

2024.7.12



T&S

Technology & Service

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
カテゴリー別売上高	p. 7
取引先別売上高	p. 8
主要取引先動向	p. 9
エンジニアの状況	p. 10
損益計算書	p. 11
貸借対照表	p. 12
トピックス	p. 13
業績予想進捗率	p. 15
株主還元	p. 17

(今期のテーマ)

次のステージへ

1 2Q会計期間の売上高、営業利益が過去最高を更新

- 2Q累計でも過去最高の売上高を更新

	前2Q会計期間	当2Q会計期間	当2Q累計期間
売上高	: 9億 2百万円	9億 32百万円(+30百万円)	17億 70百万円
営業利益	: 1億 73百万円	1億 75百万円(+ 2百万円)	3億 14百万円

2 DXソリューションが順調

- DXソリューションカテゴリーの売上高は前年同四半期比**17.6%増**。
前期から開始した大規模開発案件の受注や新規取引先からの受注が寄与し順調に推移した。
- 半導体製造産業の生産調整が終了。
半導体ソリューションカテゴリーの売上高は下期以降に本格回復の見込み。
- AIソリューションカテゴリーの売上高は第1四半期比で増加。

3 持株会社体制スタート 人材採用のための新子会社も設立

- 6月1日付で持株会社体制へ移行。
- エンジニアの募集・採用・育成とグループ内の人材活用を促進するための新子会社も設立し、事業子会社含めた3法人からなる企業グループとしてスタート。

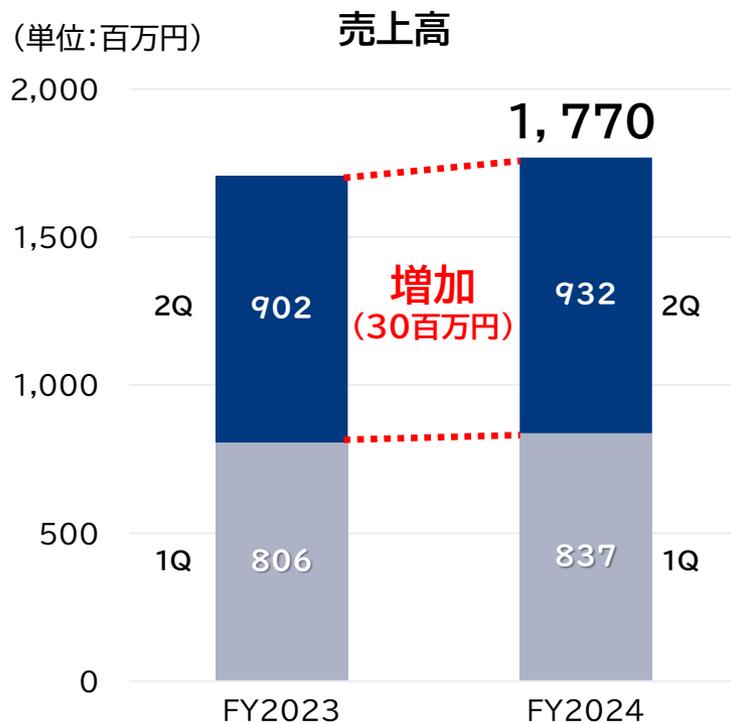
決算概要

2024年9月期 第2四半期

過去最高売上高を継続 (過去同四半期比)

2Q会計期間では売上高・営業利益とも過去最高を更新

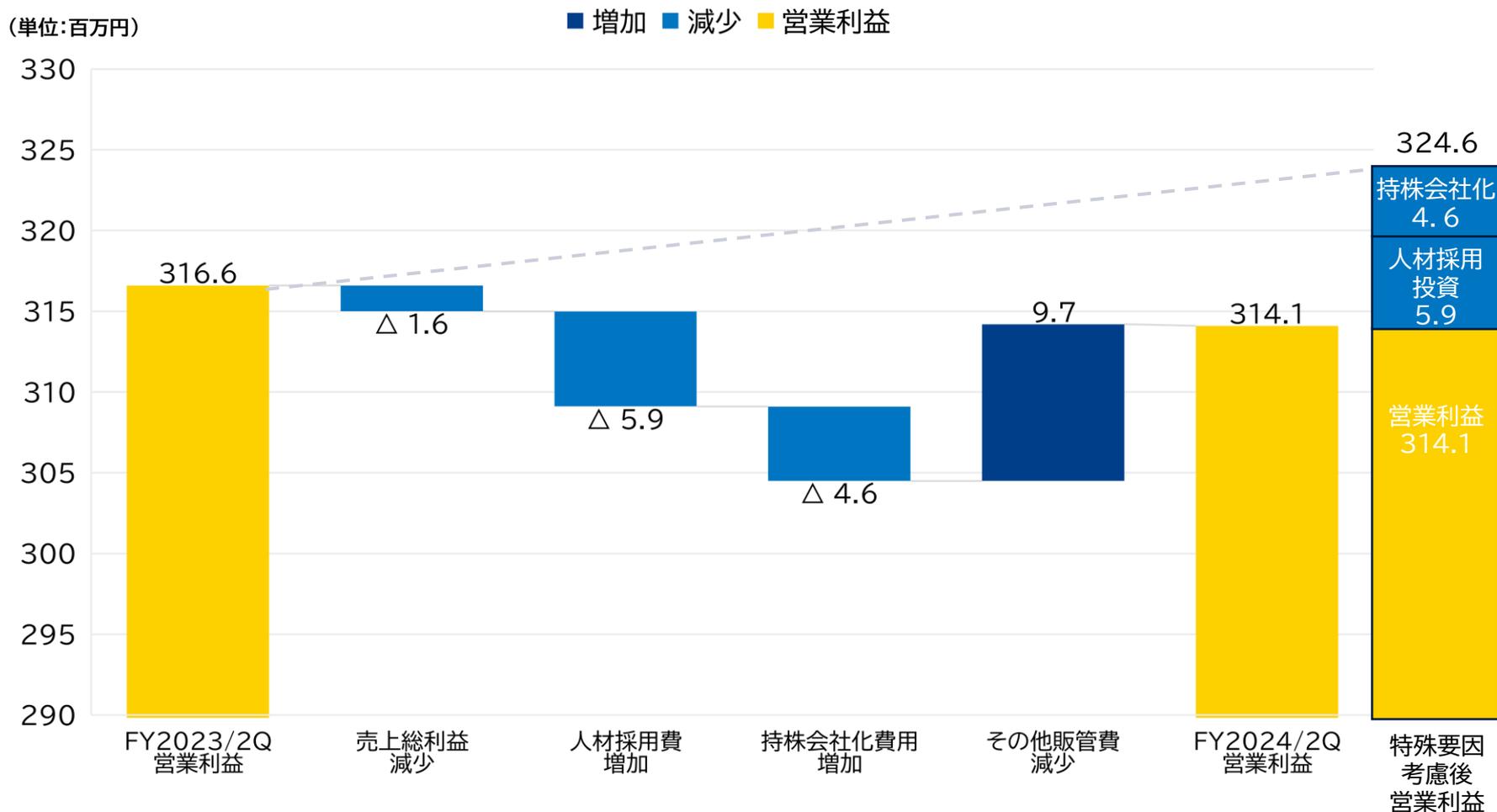
売上高	: 17億 70百万円
営業利益	: 3億 14百万円
経常利益	: 3億 14百万円
四半期純利益	: 2億 18百万円



営業利益の状況(FY2024/2Q)

人材採用投資と持株会社化の先行投資
特殊要因考慮後の営業利益は**実質2.5%の増益**

(単位:百万円)



カテゴリー別売上高(FY2024/2Q)

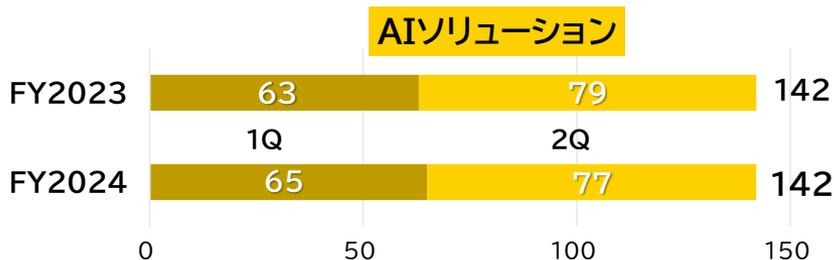
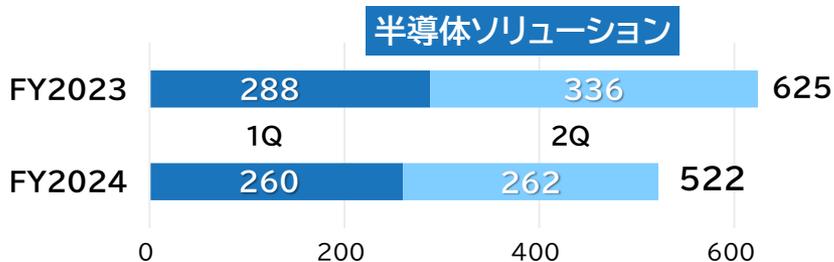
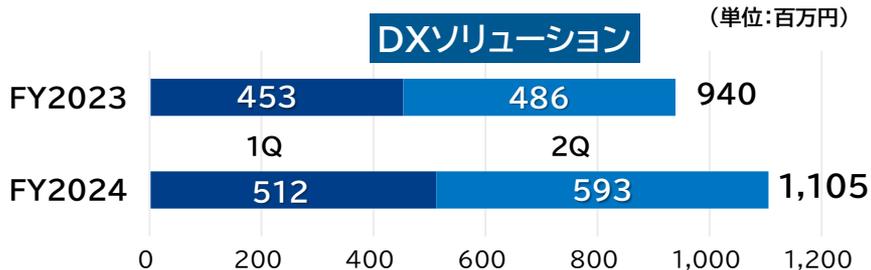
DXソリューションは**17.6%増加**で順調に推移

(前年同四半期比)

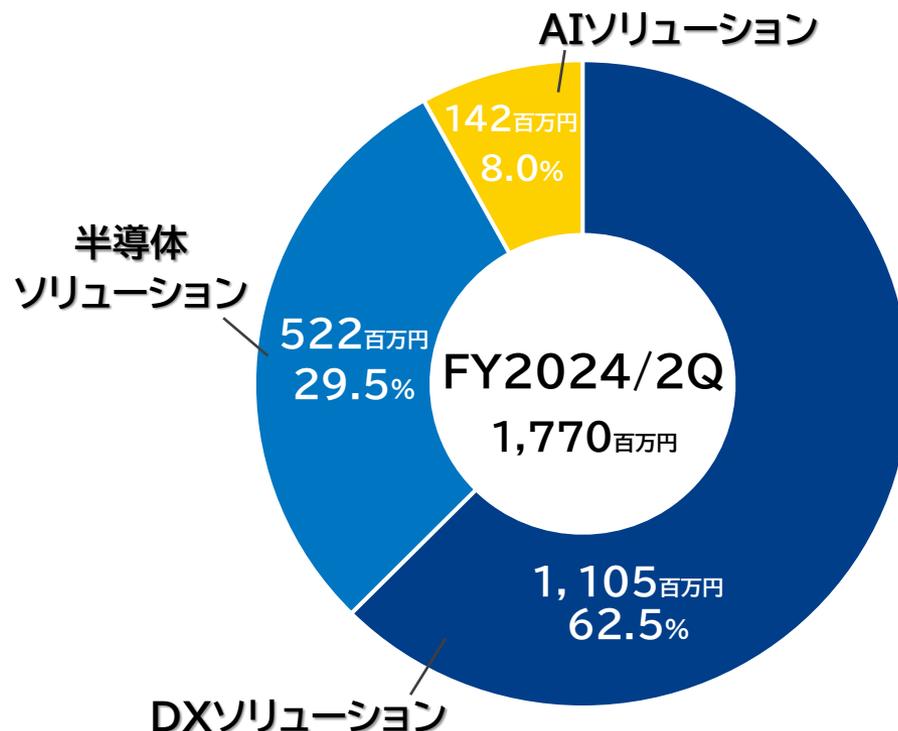
半導体ソリューションは半導体メーカーの生産調整終了を背景に引合いが急回復、下期以降、本格的に回復の見込み

AIソリューションは第1四半期比で増加

売上高(カテゴリー別)



売上比率(カテゴリー別)



(注) 当社の事業セグメントは単一セグメントです。売上高のみカテゴリー別に集計しております。当期よりカテゴリー区分を変更しております。前年度比較については、前年実績を新カテゴリー区分で再集計し比較しています。

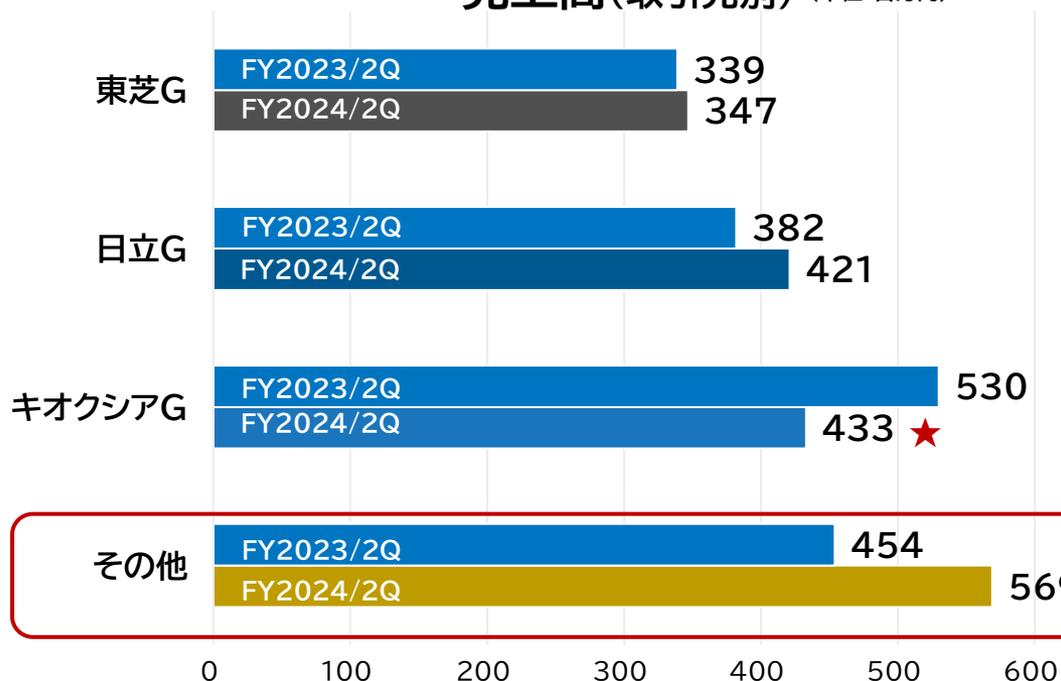
取引先別売上高(FY2024/2Q)

東芝Gが復調

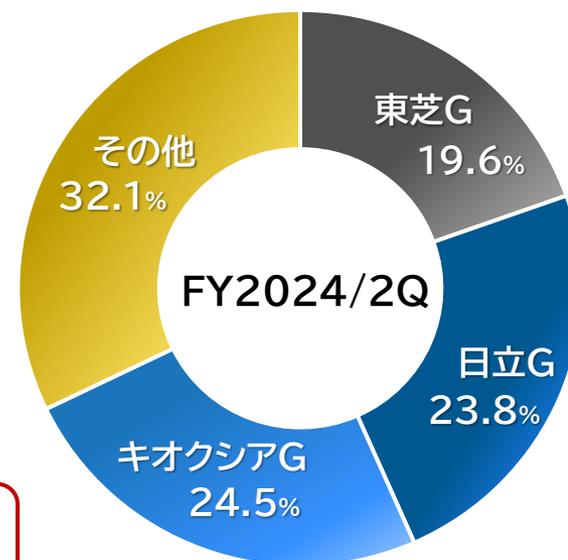
日立Gが伸長 (10.0%増加)
(前年同四半期比)

その他取引先も大幅増 (25.3%増加)
(前年同四半期比)

売上高(取引先別) (単位:百万円)



売上比率(取引先別)



- ★ キオクシアの生産調整が終了し、下期に向け急回復の見通し
- ★★ 既存顧客より受注した大型開発案件や新規取引を開始したアマノ株式会社からの受注が寄与しその他取引先の売上が伸長

(全体)主要取引先動向

(2024年7月12日現在)

減少を続けた半導体市場は旺盛なAI関連投資を背景に回復する見通しです。設備投資は持ち直しの傾向、ソフトウェア投資は増加傾向です。このように、当社を取り巻く事業環境は順調に推移する見込みです。一方、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意が必要です。

東芝G

新たな経営体制により東芝再興計画が策定され、事業戦略や将来に向けた成長戦略が公表された。計画の実行結果が業績に反映されることが期待されます。エネルギーや社会インフラ分野を中心に当社への引き合いも回復傾向です。

日立G

国内外の旺盛なデジタル需要を背景に、ITサービスを担う「デジタルシステム & サービス」セグメントにおいて、2023年度に続き増収、増益で推移する見通し。生成AI等への投資も計画されており、当社への引き合いも引き続き増加が期待されます。

キオクシアG

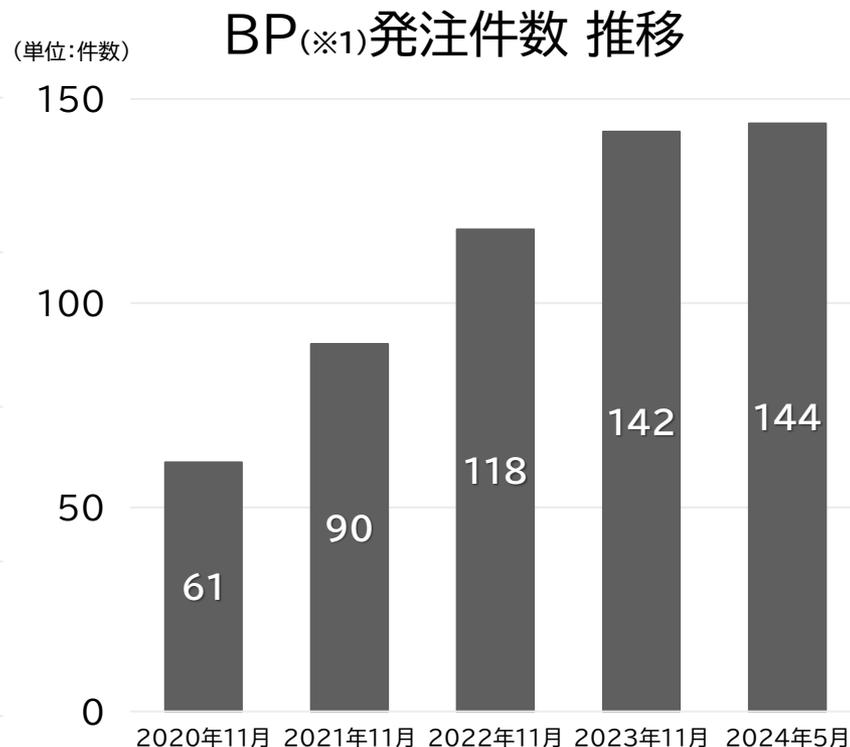
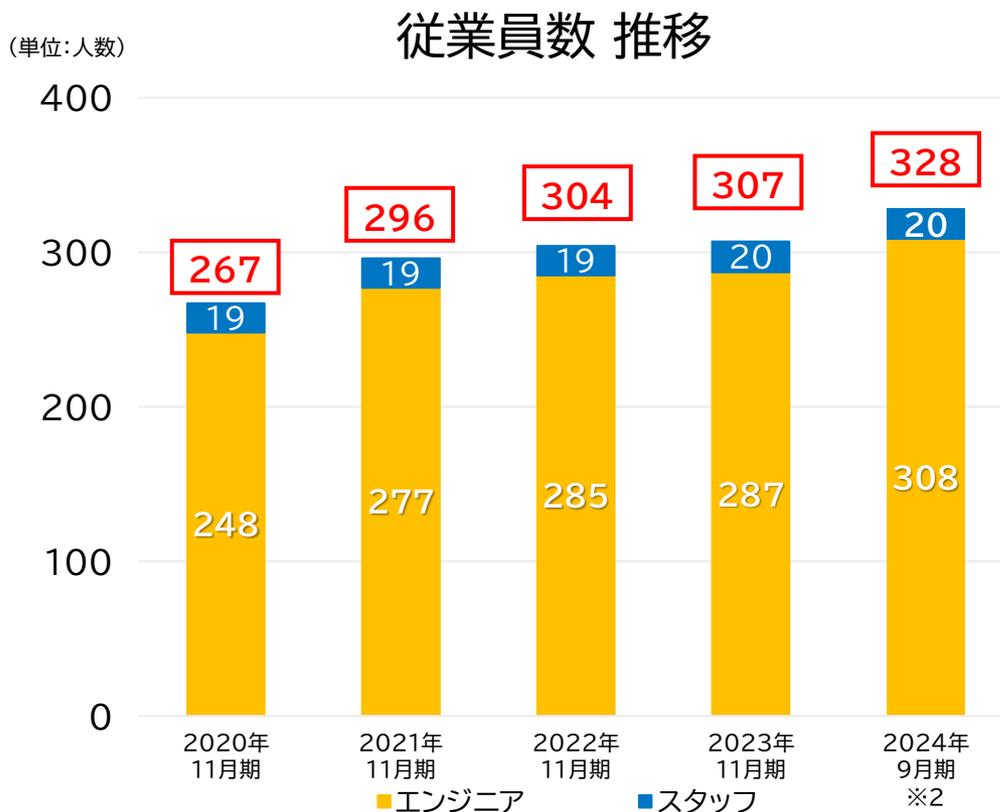
需給バランスの改善により業績も黒字に転換。データセンターやAIの普及によるフラッシュメモリ市場の中長期的な成長とそれに伴う業績の改善が今後も期待されます。安定的な事業展開に必要な資金が確保され、市場動向に合わせた設備投資も展開される見通しであり、当社への引き合いも増加傾向です。

その他

旺盛なデジタル需要やAI関連投資を背景に、当社の主要取引先大手3グループ以外の顧客からの引き合いが増加しています。エンジニアリソースを確保しお客様の要求に応じてまいります。

(各社の公表資料、及び新聞報道より作成)

年度目標に向けて順調に増員中 子会社の設立が奏功し、即戦力人材が増加 下期以降の売上高への貢献に期待



※1 BP…ビジネスパートナー。業務委託等の形態で当社業務に従事するエンジニア

※2 7/12時点(ティアンドエスグループ全体)

損益計算書(FY2024/2Q)

単位:千円	FY2023/2Q	FY2024/2Q	増減額	増減率
売上高	1,708,065	 1,770,648	62,583	3.7%
売上原価	1,182,041	1,246,247	64,205	5.4%
売上総利益	526,023	524,401	△1,621	△0.3%
販売費及び一般管理費	209,348	210,255	907	0.4%
営業利益	316,674	314,145	△2,528	△0.8%
(営業利益率)	(18.5%)	(17.7%)		
経常利益	321,494	314,456	△7,038	△2.2%
(経常利益率)	(18.8%)	(17.8%)		
四半期純利益	225,181	218,625	△6,555	△2.9%
(四半期純利益率)	(13.2%)	(12.3%)		

貸借対照表(FY2024/2Q)

貸借対照表(FY2024/2Q)

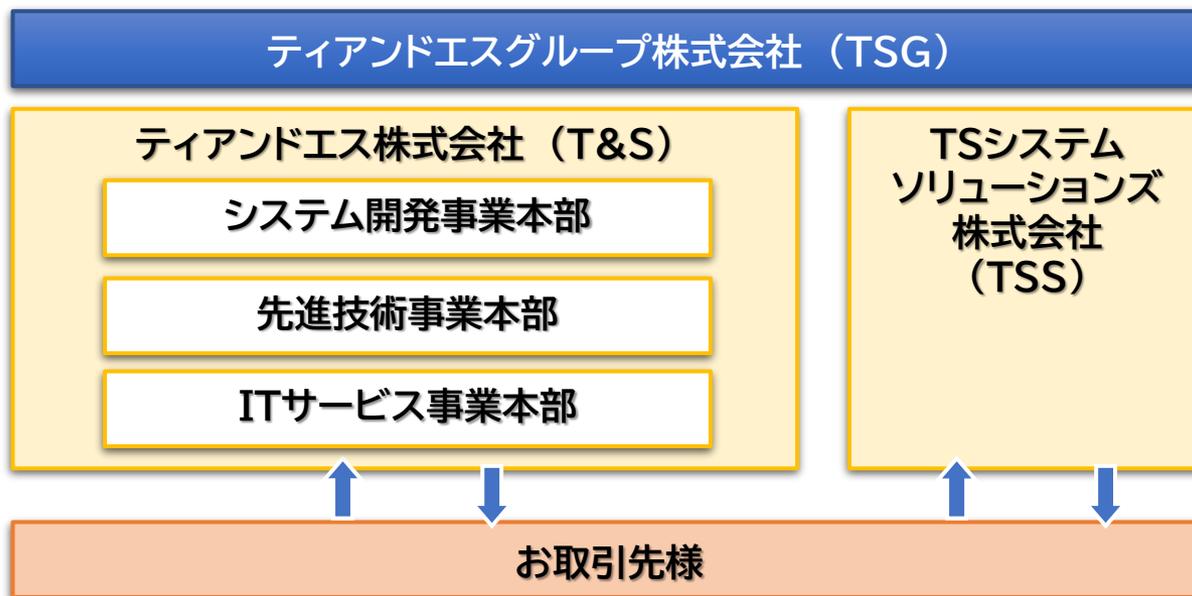
単位:千円	FY2023	FY2024/2Q	増減
流動資産	2,452,145	2,543,920	91,774
固定資産	164,315	280,914	116,598
資産合計	2,616,461	2,824,835	208,373
流動負債	395,820	429,792	33,972
固定負債	57,392	61,963	4,571
負債合計	453,212	491,755	38,543
株主資本合計	2,163,249	2,333,079	169,830
純資産合計	2,163,249	2,333,079	169,830
負債純資産合計	2,616,461	2,824,835	208,373

トピックス

トピック： 新体制のスタート

2024年6月1日より、当グループは、会社分割によりティアンドエスグループ株式会社を持株会社とする持株会社体制へ移行しました。

ティアンドエスグループ



会社	事業内容
TSG	グループ全体の事業の統括管理、事業戦略・経営戦略の策定並びに推進
T&S	ソフトウェア開発、運用保守等業務、先進技術分野に関するソリューションの提供
TSS	技術者の募集、採用、育成支援サービスの推進と当社グループ内の人材活用推進

※ 当3Qより、連結財務諸表を開示予定です。

業績予想進捗率

2024年9月期 2Q現在

予算達成に向けて計画通り進捗中

決算期変更により2024年9月期は**10ヶ月の変則決算**

単位:百万円	2024年9月期 (連結・予想)	2024年9月期 第2四半期(実績)	進捗率(%)
売上高	3,142	1,770	56.4%
営業利益	588	314	53.4%
経常利益	589	314	53.4%
当期(四半期)純利益	401	218	54.5%

全社

下期に向け、すべての事業本部において順調に推移する見通し。既存顧客からの開発案件や新規取引先からの引き合いが堅調に推移。引き続き技術者リソースを補うためBPの利用は継続するが、人材採用を強化したことや、子会社の設立により即戦力人材が増加するなどグループ内の人材活用が進み、順次売上への寄与が期待される。

システム開発 事業本部

主要取引先からの継続案件を中心に堅調に推移する見通し。
主要取引先のほか新規取引先からの引き合いも多数あり、システム開発案件の新規受注に繋がる見通し。
中途採用及びBPによるエンジニアリソースを強化し、主要取引先にとどまらない新規案件獲得を目指していく。

ITサービス 事業本部

各社の生産調整や需要の回復により需給バランスの改善が進み、半導体工場向けのITサービスは安定的に稼働。
工場における運用・保守サービスに係るエンジニア人材の供給は引き続き継続する見通し。
新卒採用、中途採用を強化し人材の適性配置を推進することで、新たな事業展開を見込んだ適切な担い手の確保と育成をめざす。

先進技術 事業本部

当上期からの流れを受け継ぎ、既存取引先での横展開と新規取引先獲得が堅調に進む見通し。
今年度の取引先状況改善が追い風となれば、最新AIプロセッサ・画像認識AI・生成AIの各分野でさらなる規模拡大が見込まれる。

株主還元

配当性向は10%を目標とします

配当の基本方針

当社は、**将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させる**ことを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した適切な配当について継続して実施していくことを基本方針としております。

2024年9月期の配当につきましては、上記方針に沿って配当性向 10%程度の水準を目途に実施することとして、1株当たり7円00銭(45銭増配)を予想しております。

2023年11月期(12ヶ月)の会計期間の配当性向10.5%に対して、2024年9月期は、13.2%と高く見えておりますが、これは決算期変更に伴い会計期間が10ヶ月の変則となるためです。

2024年9月期の財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	配当性向	株主資本配当率 (DOE)
2023年11月期	6円55銭	10.5%	2.5%
2024年9月期 (予想)	7円00銭	13.2%	2.3%

お問い合わせ先

ティアンドエスグループ株式会社

経営企画IR部

Email / pr@tecsvc.co.jp

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。